

問題【国語】

次のフレーズの下線部の活用形を答えなさい。

- (1) 理由は話さない
- (2) 話せばわかる
- (3) 話すこと
- (4) 話そう

豆知識 雑学コラム

打ち消し、推量が続くと？

「話す」を「話さない」や「話せば」とするように、動詞や形容詞、形容動詞を後ろにくる言葉によって変化させることを活用といいます。そして、「用言（動詞、形容詞、形容動詞）が後ろに続く（連なる）形」を「連用形」、「体言（名詞）が後ろに続く（連なる）形」を「連体形」というように、活用した後にくる言葉をもとに活用形の呼び方が決まっています。では、未然形はどんな言葉が後ろに続くのでしょうか。確認していきましょう。

まず、「未然」とは「まだなっていないこと」という意味ですね。つまり、未然形は「まだなっていない」ことを表す言葉が後に続くときの活用した形をいいます。例えば、「まだなっていない」の「ない」のように打ち消しや否定を表す言葉が後に続くときの形が未然形ですね。また、「まだなっていないこと」とは言い換えると「これからなること」とも言えます。ですから、「これから」話をしたいときにいう「話そう」の「う」が後に続く時の形も「未然形」と言います。このように打ち消しや推量（これから起こることを推し量ること）が後ろに続くときに未然形を使うと覚えておきましょう。

さて、「話す」の活用を考えると連用形は「話し」、終止形は「話す」ですが、未然形だけ「話さ」、「話そ」と二つの形があることを不思議に感じたことがあるかもしれません。実は、もともと未然形は「話さ」だけだったのが時代を経て変化していった2通りになりました。平安時代に「話さむ」といっていたのが、「む(mu)」のmの音がなくなって「話さう」、「さう」は発音しにくいことでさらに変化して「話そう」と変化したのです。

現代語の文法というと古文の文法より簡単だと思うかもしれませんが、未然形が二つになったと思うと、実は現代語の文法の方が少し複雑なのかもしれませんね。

【解答】

- (1) 未然形 (2) 假定形 (3) 連用形 (4) 未然形